

# 御殿堰 大黒天便り

## ◆第三号◆

山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。



「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など「なるほど!」と思っただけの内訳をお伝えしていきたいと思っております。今回は第三号です。

山形県内では、十月三日から新しいお米「つや姫」の販売が開始されました。(首都圏での販売は十月十日)  
皆さんは山形の新しいお米「つや姫」をもう召し上がりましたか?

「粒の大きさ」「白い輝き」「旨さ」「香り」「粘り」が優れているつや姫は、こはんそのものが馳走となり得るお米なのだとか。明治時代に本県庄内町(旧余目町)で阿部亀治氏が育き継いだ水稲品種「亀の尾」の良食味性を引き継いで誕生しました。つや姫の誕生までには、十年もの開発期間がかけられているとのこと。

八月二三日より御殿堰に設置された「つや姫」の稲。御殿堰を散策される方々が口ぐちに「つや姫だ!つや姫だ!」とお話されています。山形の美味しいお米が全国的にも広がっていくと良いですね。



## いんねがっす

季節毎の「ほう?」「いんねがっす」な話をさせていたきたいと思えます。様々なウンチク・四方山話をネタに、日本文化・山形文化の素敵な所を皆さんで共有していきましょう。  
(こちらのコーナーでは御殿堰にて皆様をお待ちしている各店舗御主人にご協力いただき作成していきます)

## 「裕の季節です」

四季のある日本。寒暖の差があり、春から夏にかけては「梅雨」もあります。着物には、それぞれの季節を心地よく過ごしながら楽しむための工夫が凝らされています。

大きな節目は、六月と十月。この時期に着物を冬物から夏物へ、また夏物から冬物へと衣替えをします。その際、長襦袢や帯、小物も一緒に変えます。さて、着物には、**袷(あわせ)**、**単衣(ひとえ)**とえ、夏ものがあり、それぞれ着る時期が決まっています。これを御存知ですか?

・十月から五月 袷(あわせ)

・六月と九月 単衣(ひとえ)

・七月と八月 夏もの(絹、麻、紗)

十月から五月は、袷を着ます。袷とは裏のついた着物です。裏表、2枚の布を合わせて作ってある服なので、袷とい

います。  
真夏をはさんだ六月と九月には、単衣を着ます。単衣は、裏のついていない、一枚だけの着物です。基本的には袷と同じ着物地を、単衣に仕立てたものです。

盛夏の七月、八月は**組(ろ)**、**麻**、**紗(しよ)**など、夏ものを着ます。夏ものは、夏用の特に薄い素材で仕立ててあります。そのため、袷と同じ着物地で仕立てる単衣より、さらに涼しいのです。

また、ゆかたのシーズンも、六月から八月ごろまで。暑いときは九月の中ごろまで着られますが、ゆかたはあくまで真夏の着物です。着物は季節を先取りすることをよしとするので、秋の気配がする前までにしておくのが粋です。

## 『のど痛・風邪の予防に』

朝晩の寒暖の差がある季節。こんな時は体調を崩しがちになります。皆様の体調はいかがですか?  
風邪の予防には手洗い、うがい。うがいをすると、1時間くらいは口腔内の細菌数が減っていることが、医学的に証明されています。水での「うがい」でも効果はありますが、お薦めなのは「お茶」でのうがいです。お茶の渋み成分である「カテキン」に殺菌効果があるためです。

特に「緑茶」は、ビタミンCも含まれているので一番効果が期待されますが、紅茶やウーロン茶などの中国茶でも効果はあるようです。それでものど痛が発生してしまう場合は、熱々のほうじ茶に塩をひとつまみ入れたものを飲んでみてください。ほうじ茶の香ばしい香りで飲みやすいです。また、ほうじ茶には体を温める効果があるため、初期の風邪にはぴったりな飲み物です。是非お試しください。

## 『新蕎麦の季節です』

春には「桜の開花前線」、秋には「紅葉前線」がニュースで報道されます。日本列島は南北に長く伸びて季節の訪れに時間差があるためです。蕎麦も同様、各地で作付け時期が異なります。一般的に「新蕎麦」と言われるものは「秋新」と呼ばれ秋に出回る蕎麦のことです。

蕎麦は作付けから75日で収穫が出来る穀物。そのため、各地各様の輪作が行われています。その結果として蕎麦の収穫時期に時間差がで、新蕎麦として出回る時期が産地によって変わってくるようになります。

山形県産の新蕎麦は、十月上旬から中旬にかけて収穫されます。山形県内でも蕎麦の収穫時期は南から北へと北上してきます。

十月に入り、いよいよ山形県産の蕎麦を楽しんでいただける季節になりました。種皮の緑色が鮮やかで香り高いのが新蕎麦の特徴。この季節に是非新蕎麦をお楽しみください。

## 山形五堰の総延長距離は?

山形五堰のひとつ「御殿堰」馬見ヶ崎川を取水源とし山形城へ流れ込む御殿堰の全長は十七、五キロになります。

山形五堰のように、市街地を網目状に流れている堰は全国でも珍しい歴史的財産であり、山形五堰は山形市の景観の特徴となっています。  
そんな**山形五堰の総延長は、なんと百十五キロ**にもなるのだとか。  
とは言うものの、「百十五キロ」といってもピンときませんね。  
御殿堰を出発し、『月山花笠ライン・国道112号線』を利用して酒田市の山居倉庫まで百十二キロ。この距離を歩くと約二十三時間。そう考えると、山形五堰長さは相当であることがお解りになっていただけかと思えます。

先人たちは、どのような想いでこの長い堰を掘り、整備をしていったのでしょうか?  
全長百十五キロのうち、昔ながらの石積水路が完全な状態で残っているのは僅か8キロ。昔ながらの石積水路で町の風景に溶け込むよう、御殿堰では「石積水路」「苔貼り」をしています。石積水路に這う苔の緑色が美しい今日この頃です。



A: 七日町御殿堰 ↓112km  
B: 酒田市山居倉

次号の発行は十一月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。